

# Shinagawa Junior String Orchestra Concert Tour 2010

## 品川弦楽団の ドイツ・オランダコンサートツアー

品川支部ヴァイオリン科指導者 野口美緒

2010年8月21〜30日、品川支部の生徒45名(小5〜社会人)とツアースタッフ14名で、4回目の渡欧ツアーを行いました。今回も外務省の後援をいただきました。生徒に体験させたいこととして、指導者が挙げた「教会の響き」「歴史あるホール」「現地の子どもたちとの交流、共演」がすべて実現でき、観光もたくさんあり、大変充実した10日間となりました。

どの子も育つ

感激が続いたコンサート

約60年の歴史がある品川支部弦楽団から2010ツアー弦楽団が発足したのは、2009年3月。毎月の練習、2度の合宿、出発直前7月の日本公演(銀座プロッサム)と人念な準備を重ねました。参加生徒は、自分のことは自分でできる、話を聞く、仲間と楽しめる、年下の子の面倒を見る、団の荷物を運ぶなど、人間として立派で一生懸命なことが大事。結果的に生徒は存分に個性を發揮し、協力し補い合って演奏以外にも素敵なハーモニーが作れたのが何よりでした。

最初に演奏したのは、777年建立の石造りのインゲルハイム教会でした。周囲の遺跡を見学、歴史を体感してコンサートです。この教会はレコーディングにも使われるそうですが、リハーサルが始まった途端、音楽ホールと違った響きに感動し、生徒から「うわ〜」と歓声があがりました。本番は、まだ夏休みのドイツで平日5時からのため集客が心配でしたが、現地のウエンツェルさん(オルガニスト)松元さん(音楽家)ご夫妻の早くからのご尽力で、なんと大入り満員でした。



8/23 (マインツ) インゲルハイム教会、8/24 (エッセン) フォルクヴァング芸術大学ホール、8/26 (アムステルダム) コンセルトヘボウ小ホール、8/27 交流会 (アムステルフェーンミュージック&ダンススクール)

印象深い風景だったオランダの世界遺産、キンデルダイク風車群



緊張のうちに始まった1曲目はお客様が入って響きも聴き合いやすくなり、2曲目には、2階席の親子連れも舞台上に釘付け。というのも、今回、プログラムに日本人作曲家の曲を多く取り上げています。伊福部昭の日本組曲「演伶」「倭武多」の耳慣れないながらも心躍る響き、流れはヨーロッパの人の心も捉えました。合奏協奏曲にも熱い拍手が続ぎ、メインの芥川也寸志作品の頃には、緊張が適度にほぐれ本領発揮、演奏が終わると温かい拍手・スタンディングオベーションに感激! アンコールでは指揮者と何人かの

ハッピー姿と鳴り物で「八木節」も演奏しました。会場は大いに盛り上がりました。次のコンサートはフォルクヴァング芸術大学のホール。時差ほげや疲れが出る頃でしたが、子どもたちはここでも一生懸命演奏しました。  
「子ども音楽大使」  
「子ども音楽大使」  
翌々日は、世界屈指のアムステルダム・コンセルトヘボウ小ホールでのコンサートでした。実は第1回渡欧ツアー

(1997年)でも一度演奏しています。今回、お世話くださったムソーゆかりさんは七海浩一郎先生の妹さんで、娘さんが協奏曲ソリストとして参加し、クラリネット奏者で夫のフランスさんにも大変お世話になりました。オランダの音楽界や日本社会に広報の甲斐あつてチケットは完売。キャッチコピーは「子ども音楽大使」です。  
子どもたちは当初かなりの緊張が見られましたが、由緒あるホールの風貌と美しい響きに、リハーサル、本番と次第に音楽に没頭しました。協奏曲にもカーテアンコール。後半ますます自信を持って表現する子どもたちの姿に、観客もスタンディングオベーション! 終演後の楽屋に全員の笑顔がはじけていました。  
リハーサルの合間に客席に入ったり、赤絨の廊下を歩き大ホールを覗いて感動。また、演奏会前の夕食はコンセルトヘボウ管弦楽団の団員も使用する地下食堂でした。演奏家に混じり、これもぞくぞくする体験となりました。

### 2010 公演プログラム

キャプリオル組曲/ワーロック

日本組曲より「演伶」「倭武多」  
/伊福部昭

合奏協奏曲「調和の靈感」口短調  
作品 3-10 /ヴィヴァルディ

ホルベルグ組曲 作品 40 /グリーグ

弦楽のための三章「トリプティック」  
/芥川也寸志

(アンコール)  
シンコペイテッド・クロック  
さくらさくら  
八木節



ドイツ・マインツのインゲルハイム教会でのファーストコンサート (指揮は印田礼二先生)  
ツアースタッフ/印田礼二 印田倫子 印田千裕  
白井洋治 白井由美子 岡本和子 後藤裕乃  
為貝豊 為貝智子 中陳伸子 七海浩一郎  
七海裕子 野口美緒 山中美知子

# Shinagawa Junior String Orchestra

## Concert Tour 2010

ベルギーまで足を延ばしての観光でも全員の心が一つに



コンサートへボウ公演を知らせたチラシ



終演後、皆ではじめました



コンサートへボウ小ホールでもハッピー姿が登場した「八木節」



合奏協奏曲には、2組5人ずつのソリストが日を分けて登場。左は、13歳以上のグループ、右は10～12歳のグループです



### オランダの子ともたちとの 交流と共演

興奮も冷めやらぬ翌日は、朝から交流会。オランダの生徒は25人ほどです。合同リハーサル、まずは「弦楽のためのアレグロ」(オランダ人 Johannes Bernardus van Brae 作曲)を、オランダのハンス先生が指揮。4つのカルテットのパート、計16パートという珍しい編成です。オランダ人と日本人が並び、練習は英語でも音楽は共通、先生からも周りの弾き方からも学び合い、一つの音楽にしていけます。その後「さくらさくら」と「八木節」の合同練習を印田礼一先生が担当、八木節の拍子木や、ハッピー、ねじり鉢巻にもオランダの生徒が挑戦！皆、笑顔になります。

お昼はオランダのお母様方の手料理で、生徒たちは久しぶりのおにぎりにも大喜び。そしてグループに分かれて、オランダの子ともたちが近くの市場を案内してくれました。心の距離もぐっと縮ま

ります。

4時から、お客様を迎えるのコンサート。会場は子どもたちへの愛情のあふれた、温かい拍手に包まれ、演奏後はお互いに別れを惜しみました。「英語をもっと勉強しておけばよかった」という声もあちらこちらで聞かれ、帰国後にもつながる体験となりました。



交流会のリハーサル風景です

### 本物を観光できた幸せ

移動の間を縫つての観光にも熱心に取り組みました。小グループで回る時間もありました。ドイツ、オランダ両国では、古い建築や教会が並ぶ旧市街、最も近代化されたペーリンガー製薬会社からのご招待、風車群で有名な世界遺産のキンデルダイク、ライン川下りと運河クルーズ、

### 最後に

ハードなツアーでしたが、病気や事故もなく、無事帰国できました。ヨーロッパの文化に触れ、音楽を現地の方々と共に、生徒もますます仲良くなり成長し、今後の音楽・人生への影響も楽しみで、指導者にとっても感慨深いツアーでした。

すべてのコンサートに現地の日本大使館、また領事館より総領事などの方にご来場いただきました。そして、コンサートへボウホールスタッフからは「次回は大ホールでの演奏会を企画してはいかがでしょうか?」とのうれしいお言葉もいただきました。一回これからも努力し、実現に結びつけられればと思います。

最後となりましたが、このツアーを行なうにあたり、渡欧ツアーを許可くださった中嶋領雄会長はじめ、事前準備からコンサートに向けてご協力いただきました現地の多くの方々には心からの感謝を申し上げます。

どこでも皆熱心に見て、本物の持つ力に確実に何かを感じ、3カ国の街並みや建築、文化や習慣の違いも体感した10日間でした。

指導者として心配なのは、生徒の安全と健康でした。体調を崩した数人も、数時間休んだ程度で疲れから回復しました。オランダ、ベルギーと旅するにつれて「スリ警報」は増加。班でかたまり「広がらないで!」「かばんは前!」などの言葉が飛び交い(後日、高校生からは「先生方がピリピリしているのが泥棒より怖かった」との声も)、またある時は七海先生が近づくとスリを撃退! 様々な経験の積み重ねでツアーが続けられるのだと感じた出来事でした。